



あたごふれあい人権文化センターだより

2026年9月1日発行

発行：あたごふれあい人権文化センター
住所：〒682-0846
鳥取県倉吉市鴨河内1818-2
電話：0858-28-5440 (FAX 兼)
E-Mail：atago@ncn-k.net

あたごふれあい人権文化センターだより「心ゆたかに」
に関するご意見・ご要望をお寄せください。

「第32回 中田ふれあいまつり」を開催しました！

8月9日、あたごふれあい人権文化センターにて「第32回 中田ふれあいまつり」が開催されました。感染症の流行などで実施できない年もあり、7年ぶりの開催となりましたが、多くの方にお越しいただきました。



今年は“であい、ふれあい、ささえあい”をテーマに掲げ、さまざまな催しが行われました。

同時開催の町内学習会では、「マイクロアグレッション（無意識の偏見による言動で他者を傷つける行為）」を題材にしたDVD視聴による人権学習が実施され、日々の何気ない言動やコミュニケーションについて改めて考える貴重なきっかけとなりました。

また、地域住民による模擬店「中田商店」が出店され、料理や飲み物のほか、フィリピン出身者による本場のデザート「ハロハロ」も販売されました。



さらに、会場の一角では地域の小・中学生、高校生による、地域の会社で働く実習生への理解を深めるためのスリランカやベトナムの文化を紹介する展示コーナーが設けられ、実習生の方々もご自身の母国の紹介展示を熱心にご覧になっていました。



その他、ゲームコーナーやビンゴゲームなども実施され、世代や国籍を超えた交流と「支え合い、穏やかな地域にしていこう」という地域の願いが反映されたまつりとなりました。

..... あたごふれあい人権文化センターからのお知らせ

令和8年度 第4回倉吉市人権のために学ぶ同和教育講座

共生社会実現に向けて 地域へ恩返し

日時：9月12日(土)
13:30~15:00

場所：倉吉交流プラザ 視聴覚ホール

講師：福永 幸男さん

(倉吉市身体障害者福祉協会 会長)



9月のあたごふれあいサロン

今日からできる、自分らしい
暮らしのための終活第一歩！

日時：9月25日(金)
13:30~15:00

場所：あたごふれあい人権文化センター

参加費：200円(資料代・お茶代)

※参加される方は9月18日(金)までにお申込みください



差別落書きは重大な人権侵害です！

※差別発言に遭遇した場合や差別落書きを発見した場合、また悩みごと、生活で困っていることなど、人権政策課または最寄りの人権文化センターへご相談ください。

人権政策課

TEL 0858-22-8130

あたごふれあい人権文化センター

TEL 0858-28-5440



アンコンシャス・バイアスと性別役割分担意識

日常生活の中で「男だから」「女だから」という理由で、男女の役割や生き方を決めつけていませんか？こうした考えは、自分でも気がつかないうちに身についている無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)から生まれることがあります。

1 アンコンシャス・バイアスは「見えない心の壁」

アンコンシャス・バイアスは、自分では気がつきにくい無意識の思い込みです。これまでの経験や価値観に影響されて身についたものであり、特定の人や物事に対して、無意識に「ものの見方」や「捉え方」が歪んだり偏ったりした状態で判断してしまうことを指します。本人が自覚していないため、相手を理解する前に無意識に判断してしまうなど、「見えない心の壁」となることがあります。

例えば…

- ・男女の性別によって仕事や役割を決めること
- ・学歴や年齢、国籍、肌の色などで相手を判断すること



2 性別役割分担意識とは

性別役割分担意識は、「女だから」「男だから」など、性別だけを理由に男女の役割を固定的に決めつけてしまう考え方のことです。

例えば…

- ・男は仕事、女は家庭
- ・家事、育児、介護は女性の仕事
- ・組織のリーダーは男性の方が向いている
- ・営業は男性、女性は事務職が適している

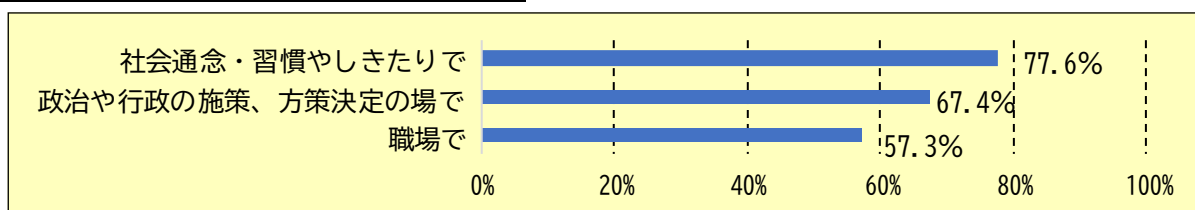


このような固定観念も、無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)の典型例と言えます。

3 市民意識調査結果から

令和6(2024)年度 倉吉市男女共同参画に関する市民意識調査から、学校、職場、家庭、地域などの様々な場面における男女の地位の平等感について質問したところ、男女の地位が「平等ではない」(男性優遇)と答えた市民の割合は5割を超えており、令和元(2019)年度の調査時から大きな変化はありません。

◆「平等ではない」と答えた市民の割合



4 立ち止まって考えることの大切さ～アンコンシャス・バイアスを減らす3つのポイント～

アンコンシャス・バイアスは誰もが持っているものです。しかし、気付かないまましていると自分や周囲の人の可能性を狭めてしまったり、誰かを傷つけてしまったりする場合があります。お互いを尊重し、多様な生き方や考え方を認め合うことから、偏見のない社会への一歩が始まります。

一人ひとりが自分らしく生きる社会を実現するためには、日常生活の中で次のように意識することが大切です。

- ① 「べき」「普通は…」といった言葉や決めつけに注意する
- ② 相手の表情の曇りなど、言葉にされないサインを見逃さない
- ③ 「自分の中に思い込みはないか」と常に自分に問いかけ、振り返る



「性別ではなく、その人自身を見て判断しているだろうか」と立ち止まり、日々の行動や発言を見つめ直してみませんか？

政府広報オンラインより一部引用